

谷地森医師(メンタルヘルス科診療部長)のインタビュー記事が新聞に掲載されました

平成 23 年 3 月 26 日 (土曜日) 東奥日報夕刊 (第 42984 号) に掲載



やちもり・こうじ 45歳 十和田市

1965年、仙台市生まれ。弘前大学医学部卒。同大学付属病院、秋田県市立中央病院精神神経科(現メンタルヘルス科)に

身体問題と精神問題 一緒に診る病院必要

「経済性の追求という観点
が欠落」「存在意義について
改めて検討すべき」毎年1
億円の赤字を計上しており、
市からの繰入金も平成19
年度から年度までの3年間
だけでも億円超。1月に
公表された十和田市立中央病
院に対する外部監査で、メン
タルヘルス科(旧精神神経科)



が厳しい指摘を受けた。しか
が、その後の経営評価委員会
で病棟は、同診療科を存続
する方針を打ち出し、関係者
らをサポートさせた。
— 外部監査の報告を、どう
受け止めましたか。
— 繰入金のとら方はいろいろ
あるが、実質上、メンタル
ヘルス科が病院中に大きな

赤字を与えているのではな
く、少し減らせばいいのでし
ょう。指摘されたのは医師1
人で経営が難しかった時期こ
とで、その後はどうも人増
えて収入が増え、そんな悪い
経営状況ではない、手厚い
医療と看護で急性期の患者を
自宅へ戻す医療に取り組み
とで、県内でも特に高い医療
単価を得ている」

— 地域医療の中核と大病
院で、メンタルヘルス科が維
持されたことの意味は。
— 「なにかいっても、今すぐ
入院を必要とするような急性
期の人(うつ病で死にたくな
っている人、幻覚妄想状態で
興奮している人)など、民間
病院で対応しづらい人への
入院医療が確保される、もし
公的な病院の医療がないと

その人たちが医療難民化して
しまふ可能性が高い、十和田
市の場合は、民間が主に慢性
期の患者さんを見て、当院が
急性期に対応している」

いうことになると、医師もへ
つと減り減少してきているの
が大きな問題。(自備などで
救急を運び込まれた場合、初
期治療は内科としますが、
その後のメンタルケアが必要
な人もいる。すぐに退院する
と、自備や自費を繰り返す)
「これもなる」

— 精神疾患を抱えた人の身
体疾患、いわゆる心身合併症
が社会問題化している。
「身体の問題と精神の問題
を一緒に対応できる病院が少
ないが、精神科専門の病
院に身体に対応できず、精
神科の病棟がない病院で
は精神科の不安定な人に対
応できない。それに対応す
るのが総合病院の精神神経科と

— また、公的病院といこ
とで司法的な措置入院と医療
警察、児童相談所と連携し
た子どもの問題など、一般の
病院では手を出せないような
公共的な医療を担っている
という意味でも、メンタルヘル
ス科は大切だ」

— 経営評価委員会に先立ち
市民団体が病院の経営トップ
である院長を招いた勉強会
を開き、同診療科の存続につ
いて意見を交わした。

ちよつとごちよつとお尋ねします

396

— 市民の関心も高まっ
かったのではないかと
「メンタルヘルス科閉
鎖が持ち上がったとき
の患者さんから、な
ら困るといふ意見を
聞いた。勉強会で市民
の意見を説明したら非
反応が強く、心の問
題はメンタルヘルス科
で対応してもらいた
いと言った。その後
市民の会もできた。十
和田市民の動きに非
感服しています」

— 医師が3人もい
る市の財産」という意見
があった。新設は医師1
人の2008年度の10
比、3人となった10年
4倍以上の70人に増
え込みで、医療収支も
円の増収となりそう
だ。— 精神神経科をメン
タルヘルス科に改称したことが
数増に繋がったのでは
ないか



「もともと21人が居
たので、医師が増えれば
数も増える。利用もす
うに名称を変えたことで
が、それで増えたのか
らない。他の診療科が
するに、精神神経科が
メンタルヘルス科の方が
の考え方はある」

— うつ病が増加し、1
0万人を超えたとされ
同診療科でも10年
新患者も入った。半
上の34人がうつ病
— 1人など、早
受診し方がよいか
— 「不眠、朝の腸が
ものごとが楽しめな
った症状が、うつ病
の経過でよく見られ
る。うつ病は、うつ
体の症状は目覚まし
がなくても、心の症
の場合、ほっとして
現れる。うつ病は、
医師以外に、うつ病
からうつ病までうつ
うつ病」

(清藤)